

【香住丘方式】各教科・科目のルーブリック統一様式と記述方法

福岡県立香住丘高等学校

1 学習評価の目的

- (1) (教師の指導改善につながる評価) 教師が指導の改善を図る。
- (2) (生徒の学習改善につながる評価) 生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

2 「ルーブリック」の役割

- (1) 生徒の学習状況が到達目標にどの程度近づいているかを適正に判断・評価する。
- (2) 評価者によって観点や基準が異なることを防止する。

3 ルーブリック様式と記述方法

到達目標の構造化とルーブリックの記述法について説明します。評価の判断基準を明確にするため、生徒の理解・活動・態度を「~しようとしている」=△、「~できる」=○、「高いレベルで~できる」=◎ の3段階区分を基本として、「~」には到達目標から抽出したキーワードを挿入します。生徒が自己評価することも想定し、評価の最低基準に「~できない」などの否定的表現を避けることも重要です。

この方法で到達目標に対する「ルーブリック」を作成すると、図1に示す3段階型ルーブリックになります。3段階型ルーブリックは、生徒の自己評価で判断が容易になる反面、8割以上の生徒が同じ段階の評価になるなど、評価の目的が十分に達成できない状況が発生することがあります。

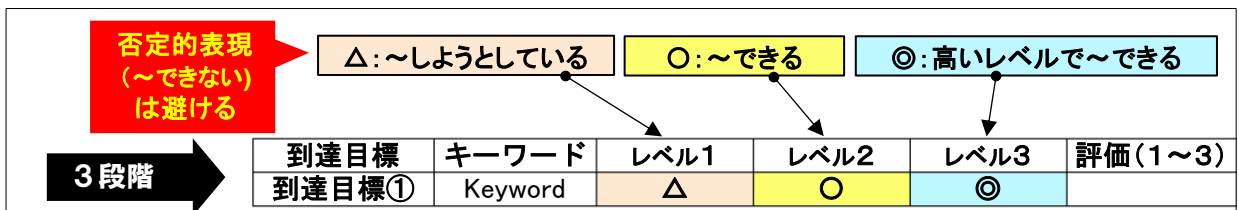


図1 3段階型ルーブリック 生徒も自己評価できるが、評価の目的を十分に達成できない。

この問題を解決するには評価基準の細分化が必要ですが、図2に示す5段階I型ルーブリックでは、レベル2やレベル4の判断基準が曖昧で、適正な評価を損なうこととなります。



図2 5段階I型ルーブリック 評価の目的を達成できるが、判断が難しい。

図3に示す5段階II型ルーブリックは、1つの到達目標に対して2つのキーワードを抽出し、評価を重ね合わせることによって5段階化したもので、生徒の適正な自己評価と評価目的の達成を可能にします。

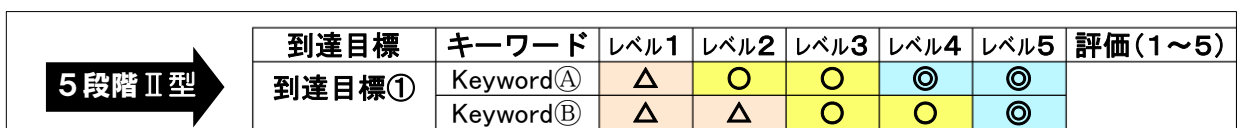
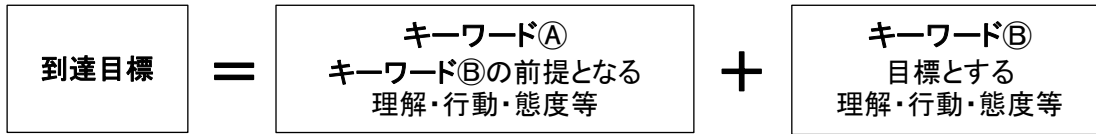


図3 5段階II型ルーブリック 生徒が自己評価でき、評価の目的を達成できる。

4 到達目標の構造化と記述方法

(1) 到達目標の記述方法

キーワード①、②を抽出することを前提に、到達目標を下記の形式で表現します。



(2) 到達目標の記述例

〈探究教科の表現例〉

到達目標① 学問や社会に存在する課題を知り、研究テーマを決めることができる。

↳ ①学問や社会の課題を知る ↳ ②研究テーマを決める

到達目標② 文献・図書や研究事例などの情報源から、関連する用語や知識の理解を深めることができる。

↳ ①情報源を理解 ↳ ②関連する用語や知識の理解

〈一般教科の表現例〉

到達目標① 物理的な事物・現象に関心や探究心をもっている。

↳ ①事物・現象に対する関心 ↳ ②事物・現象に対する探究心

到達目標② 事象を実証的・論理的に考え、分析的・総合的な考察力で問題を解決することができる。

↳ ①実証的・論理的な思考力 ↳ ②分析的・総合的な考察力・解決力

5 ルーブリックの記述方法と表現例

学習過程	到達目標	キーワード	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	評価 (1～5)
		キーワード①	△	○～できる	◎高いレベルで～できる	◎		
単元・学習項目(1)	到達目標①	キーワード①	△～しようとしている	○～できる	◎			
		キーワード②						
	到達目標②	キーワード①	△～しようとしている	○～できる	◎			
		キーワード②						
単元・学習項目(2)	到達目標③	キーワード①						
		キーワード②						
	到達目標④	キーワード①						
		キーワード②						
:								
:								
総合評価								

(教科・科目・単元) ルーブリック

福岡県立香住丘高等学校

学習 過程	到達目標	キーワード	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	評価
		キーワード①	△		○		◎	
		キーワード②	△			○	◎	
総合評価								

〈記入上の留意点〉

- (1) 到達目標や評価基準の記述方法は、資料「各教科・科目のルーブリック統一様式と記述方法」で御確認ください。
- (2) 到達目標の設定は、1コマの授業で1～3程度、各科目の年間計画で6～10程度を目安に設定してください。